

<挫折からのキャリア論>

メディア等で活躍中の信州大学社会基盤研究所特任教授 山口真由氏に、「女性活躍」と「キラキラに見える人生…実際は挫折の積み重ねだった」これまでの人生について講演をしていただきました。以下、内容の概略です。

世間では「女性活躍」がよく話題になるがなんとなくやらされている感、腹落ちしていない感じがする。それは「女性活躍推進」のロールモデルがほんの一握りの「超人的な成功例」と混同されているからかもしれない。そのような超人的な成功例に倣うより、リアルな挫折や失敗談を共有する方が参考になるのではないか。

私は東京大学「首席」、財務省キャリア、弁護士、ハーバード、東大博士課程というキャリアを持つが実際は挫折だらけだった。人一倍勉強し仕事量も増やし頑張ったが、学生時代の輝かしい実績とは違い、社会に出てからは自分は仕事が全くできないのだと実感した。自分は読むことで全てが理解でき、情報収集には長けているが、考えることが非常に苦手だった。

財務省は短期間で退職、弁護士事務所も肩たたきにあい、留学しても英語が話せなかった。そんな中、留学中なんとなく受けた「家族法」の講義に出て、弁護士は「M&A」が王道と思って無理をしていたが自分の興味一般的には知られてない「家族法」だと気付いた。「人は何者かに生まれ変わるわけがない。自分が何者かを知るためにあらゆる扉を開きつづけるのだ」と。

山口真由氏はこのように挑戦と挫折を経験して、その結果自分らしく「活躍」できる道を見つけたことができた。「活躍のカタチは誰かから与えられるものではない。自らの強みを理解し、納得した道を選択すること」と話しを終わられた。

数々の挫折のお話もユーモアを交えながら楽しく語っていただき、皆さん興味深く聞き入っておられました。講演後の質疑応答も「女性活躍について」や「夫婦別姓について」など男女共同参画のテーマに沿ったものが多く有意義な講演会となりました。参加者からは「自身のお話と社会問題を結び付けてとても興味深いお話を聞くことが出来ました。」「ご自身の弱さを含め、率直に熱を込めて話して下さったから大変良かった。」といった感想が寄せられました。